

6.6 太陽光マッピング構築における課題の整理

これまでの調査で挙げられた太陽光マッピング構築における課題をシステム構築とデータ整備、導入促進機能の構築の3区分に分けて整理した結果を表 6.6-1 に示す。太陽光マッピングシステムはシステム構築とデータ整備に限って言えば、既の実績のある取り組みである。太陽光マッピングシステムを通じて地域の太陽光発電導入を促進するためには導入促進機能の構築に重点を置き、地域関係者が連携して地域の中で円滑に導入が進む仕組みを各々が検討していくことが必要となる。

表 6.6-1 太陽光マッピング構築における課題の整理

区分	課題
システム構築	<ul style="list-style-type: none"> ・システム構築には大きな初期投資を必要とするため、一自治体や一民間事業者等では負担が大きい。 ・環境省が構築する場合、利用者のアクセス権限や利用範囲をどのように設定するか検討する必要がある。 ・定期的なメンテナンスの費用を誰がどのように負担するのか検討する必要がある。また、いつまで事業継続するのかといったことも見通しをつけることが求められる。
データ整備	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体によって保有しているデータ形式や精度が異なる。 ・精度が高いマップを使用するとすれば、当該マップデータを保有していない自治体が多くなる。また新規に取得するには多額の費用がかかる。一方で精度が低いマップを使用すれば、当該マップデータを確保しやすいが分析精度が粗くなり信頼性の低い太陽光マッピングシステムの提供になりかねない。 ・自治体が自治区域全域のデータを保有していることは少なく網羅性の担保が懸念される。
導入促進機能の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光マッピングシステムに取り組む各団体が各々メリットや意義を明確にすることが求められる。 ・自治体や民間企業等が単独で導入促進機能を担うことは難しく、複数団体で補完していくことが求められる。 ・自治体が特定企業を紹介することはできない。 ・紹介先企業の技術レベル等を一定程度担保する必要がある。 ・導入促進機能が地域経済の向上や地域ネットワークの関係強化につながることを求められる。 ・太陽光マッピングシステムの効果測定が困難。